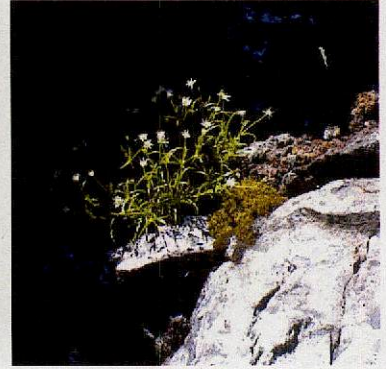




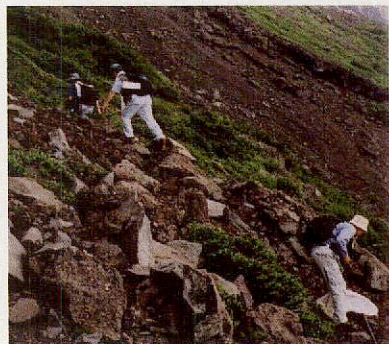
タテヤマキンバイ (バラ科)
富士山から初記録となる高山植物。撮影：渡辺長敏



オオピランジ (ナデシコ科)
富士山から初記録となる高山植物。撮影：渡辺長敏



富士山頂のイワツメクサ (ナデシコ科)
富士山頂で維管束植物が確認された。撮影：篠田



2,800m付近の岩場を調査
かなり危険な地域。左から渡辺長敏(植物)・宮下泰典(昆虫)・渡辺通人(昆虫)。撮影：篠田



山頂で採捕したヒメネズミ (ネズミ科)
山頂では3種、六合目以上の高山域では14種以上の脊椎動物が確認された。撮影：篠田



富士山頂のイワヒバリ (イワヒバリ科)
富士山高山域を代表する鳥類。山小屋への営巣も確認した。撮影：篠田



夜間八合目山小屋での蛾の燈火採集
カラフルなバケツは衝突板トラップ。調査者は瀬子義幸(蛾類)。撮影：篠田



八合目の衝突板トラップで得た多数の蛾
3,200m地点。ハエ・ハチも多い。山小屋の明かりにも飛来する。撮影：篠田



富士山頂に飛来したオニヤンマ (オニヤンマ科)
山頂では27種、六合目以上の高山域では88種以上の無脊椎動物が確認された。撮影：篠田



富士山頂の雪渓
多種の昆虫類を得た。枠内はヨツメハネカクシ亜科の一種(同定依頼中)。調査者は原田浩(地衣類)。撮影：篠田

PL. 17 特定動植物調査 溶岩洞穴



縦穴に入る調査グループ
10mを優に超える深さがある。撮影：篠田



天上の高い洞内
左から萩原康夫(無脊椎動物)・白石浩隆(コウモリ類)。撮影：篠田



天上の低い洞内
腹這いで入る場所もある。手前に懸垂しているのはキクガシラコウモリ。撮影：篠田



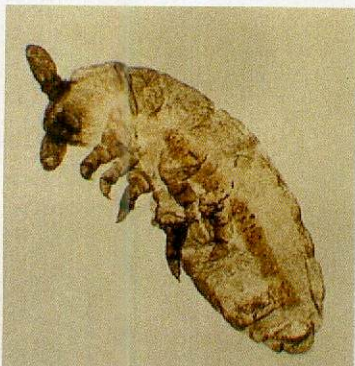
無脊椎動物の採集
コウモリのグアノには無脊椎動物も多い。左から伊藤良作(無脊椎動物)・白石浩隆(コウモリ類)。撮影：篠田



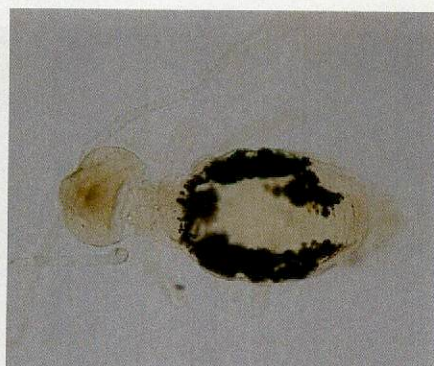
テングコウモリ (ヒナコウモリ科)
懸垂せず溶岩の亀裂などに潜り込むタイプのコウモリ。撮影：白石



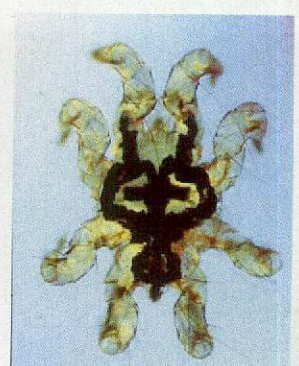
かすみ網で採捕したウサギコウモリ(ヒナコウモリ科)
富士北麓は多種のコウモリ類が同所的に生息する日本有数の地域。撮影：篠田



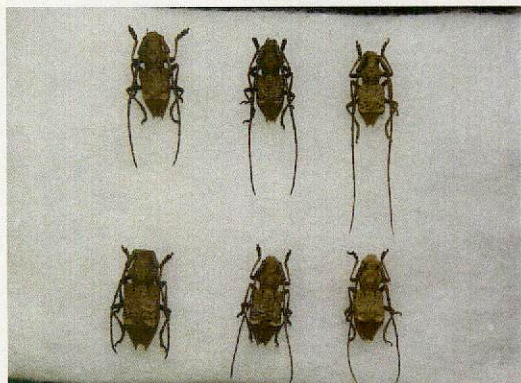
ホラヒメトビムシ (ムラサキトビムシ科)
関東初記録。富士北麓地域から真洞穴性トビムシがはじめて記録された。撮影：伊藤



ヒトツメマルトビムシ属の一種 (マルトビムシ科)
ツメが非常に長い真洞穴性種の形態を有する未記載種。撮影：伊藤



モモジロコウモリダニ (コウモリダニ科)
本調査ではコウモリ類の外部寄生虫も多数確認された。撮影：茅根



自然林に生息するコブヤハズカミキリ類
 左：フジコブヤハズカミキリ・右：セダカコブヤハズカミキリ
 中：フジ×セダカと思われる個体(いずれも上：♂・下：♀)。
 写真の個体は2002年芦川村産。採集：宮下



ハンノキによるコブヤハズカミキリのトラップ
 富士山の地史や植生環境との関係から興味深いカミキリ類である。
 撮影：渡辺通人



チャマダラセセリ (セセリチョウ科)
 国 RD 絶滅危惧Ⅰ類。撮影：渡辺通人



クロシジミ (シジミチョウ科)
 国 RD 絶滅危惧Ⅰ類。撮影：渡辺通人



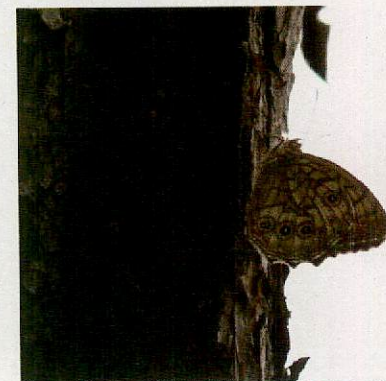
ミヤマシジミ (シジミチョウ科)
 国 RD 絶滅危惧Ⅱ類。撮影：渡辺通人



ゴマシジミ (シジミチョウ科)
 国 RD 絶滅危惧Ⅱ類。後翅は個体調査のためのNaIマーク。撮影：渡辺通人



ヒメシロチョウ (シロチョウ科)
 国 RD 絶滅危惧Ⅱ類。撮影：渡辺通人



キマダラモドキ (ジャノメチョウ科)
 国 RD 準絶滅危惧。撮影：渡辺通人